

本学名誉教授山肩邦男先生が、去る十月五日逝去された。この日は奇しくも先生の七十三歳の誕生日であった。

先生は京都大学を卒業



後、京都大学、京都工芸繊維大学を経て、昭和四十六年四月本学の建築学科教授として着任された。当時は、建築基礎構

造を専門にされている方が比較的少なく、助手として一緒に来られた富永晃司先生（現広島大学教授）とともに、関西大学を基礎構造のメツカにし

先生は何事も自然現象を見つめることから出発された。実験を重視し、実験結果に対して言い訳することを嫌った。予想と異なつた結果が出た場合

山肩邦男先生を偲んで

伊藤 淳志

ようと血気盛んであつた合は、実験のやり方がまとお聞きしている。事実、先生は学会において常に指導的地位にあつて、学会の発表会では、誰もが先生の質問や指摘を固唾をのんで聞いていた。

口癖のように言われている。研究には苦悩がつきまとうが、人類が未だかつてやつたことのないことに取り組んでいるんだという情熱を好まれた。定年退職からわずか二年余りでお別れすることとなり、研究の支えをなくした不肖の弟子としては心細い限りであるが、先生のロマンを受け継いでいくことがなによりの供養であろう。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。（工学部助教授）